

2010 年度報告書（研究員）

氏 名	小島 剛
職 位	短時間研究員
<p>研究概要</p> <p>2010 年度の研究は大きく分けて以下の三つの点から説明できる。</p> <p>①、<b>幹細胞規制の国際動向の研究</b>。以下の業績 1、2、がこれに該当する。1998 年のヒト ES 細胞の樹立、2007 年の京都大学山中伸弥グループによる iPS 細胞の樹立など、最近の幹細胞に関する研究の進歩には目覚ましいものがある。反面、ES 細胞はヒトの受精卵を滅失せねばならず、倫理的問題をはらんでいる。</p> <p>こうした幹細胞の研究には倫理的・法的・社会的規制が欠かせない。そこで、世界各国では規制が進んでいる。本論文では日本・イギリス・フランス・韓国・ドイツの規制の状況をまとめ、日本がとるべき規制のあり方を提言した。</p> <p>②<b>科学技術と法律の関係について、水害と原発訴訟の事例から考える</b>。以下の業績 3、がこれに当たる。訴訟において科学的な鑑定が求められることがあるが、裁判官は概して、科学技術的なリテラシーを持ち合わせていない。そこで説得力を欠く判決が出ることは珍しくない。この問題を正面から取り扱った。</p> <p>③<b>科学技術に関する NGO の考察</b>。以下の業績 4、がこれに当たる。②とも関連するが、科学技術に関する訴訟を起こす際には、鑑定人の調達が不可欠であるが、災害被災者や経済的困窮者などの社会的弱者が科学技術的知識を持った鑑定人を調達するのはきわめて困難である。こういった人々を科学技術的に救済している NGO「国土問題研究会」の考察をまとめた。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>論文</p> <p>1、<u>Kojima Takeshi</u> ‘The international circumstances of stem cells in the world and Japan’ Wako Asato and Kaoru Aoyama eds. Reconstruction of the Intimate and Public Spheres Proceedings of the 1st Next-Generation Global Workshop,2010, 513-533.</p> <p>2、<u>小島 剛</u> 「幹細胞の規制に関する国際動向の研究」『年報 科学・技術・社会』19 巻 79-100, 2010.</p> <p>報告</p> <p>3、Kojima Takeshi, The Importance of Scientific NGOs and “Science and Technology” at the Japanese Bar, November 21, 2010, at Tokyo University, Symposium: Atomic Energy and the Possibility of Participatory Technology Assessment</p> <p>4、Kojima Takeshi, ‘New forms of academic expertise: the case of Kokudoken’, Globalisation at the cross-roads Innovation, Work and Family in France and Japan. Workshop organised by the Institute of Research (Marc Humbert) and Strasbourg University. at Maison Franco-Japonaise(日仏会館), February 28, 2011.</p>	